

月曜日

5

きょうのみことば

デモテ 2:7

私が言っていることをよく考えなさい。主はすべてのことについて、理解する力をあなたに必ず与えてくださいます。

たいしつ 体質を作ろう

ハーバード大学に通う学生たちの間で「4時間以上、寝るならば、地獄に行く」という言葉があります。じょうだんですが、そのくらい一日に 12～13 時間を集中して勉強しなければ、学校の授業についていくことができないということです。しかし、ハーバード大学の学生は、「考えは自由に、生活は厳しく」というハーバードだけの体質を作って、世の中に出て行ったとき、成功の座に上がります。

1. 福音体質

煮物一杯で長子の権利を奪ったヤコブは、兄エサウから逃げて母の兄であるおじラバンの家で 20 年間、暮らしました。ヤコブは熱心に生きたのですが、苦難が絶えなかったのです。しかし、ヤボクの川で神様の使いと戦って勝つ祈りを体験した時「イスラエル」という名前の祝福を受けました。レムナントは、体質になる時まで、ヤコブのようにあきらめないで、最後まで忍耐しながら挑戦しなければなりません。

2. 3つの体質

レムナントがかならずそろえなければならない 3 つの体質があります。最初に祈りの体質です。単純に習慣的に祈るのではなく、体質にならなければなりません。二つ目、勉強体質です。勉強を熱心にだけするのではなく、幸せに楽しむ体質を持たなければなりません。三つ目、伝道体質です。友だちをとにかく教会に連れてきて座らせるのではなく、友だちを愛する心を抱いて、そのたましいにたいして祈りながら、心よりみことばを伝える体質をそろえなければなりません。レムナントは、この 3 つの体質になる時まで神様の恵みを慕い求めなければなりません。

神様、成功者の体質をそなえることができるように、みことばをくださって感謝します。すべてのことについて理解する力を与えてくださるというみことばが体質になるまで、平安に定刻、常時祈りをします。このみことばが理解でき、祈り・勉強、伝道の体質がそなえられるように助けてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン

※定刻祈りの点検：昼 12 時□—教会のために祈りましょう。夜 9 時—RUTC のために祈りましょう

学院福音化適用 1

ダビデの準備したソロモン神殿

神殿を建築する土地

神様は、ダビデに神殿を建築できる土地を見せてくださいました。その土地は、エルサレムの中にいたエブス人オルナンンの土地でした。

ダビデは、その土地を見て驚きました。

「ここに主なる神様の神殿を建て、イスラエルの祭壇を築こう」

ダビデは、その土地を金のシケルで重さ 600 シケルで買いました。そして、そこに神殿を建てる心を持ちました。その土地はアブラハムがイサクを神様にささげた場所でした。

神殿建築のために

ワンネス (Oneness、ひとつ) となったイスラエル

ダビデのあとに王になったソロモンは、命令されたとおり神殿建築を始めました。そして、すでに祭司とレビ人は、神殿を建てる準備をしておえていました。すべての技術がある人もソロモンを助ける準備ができていました。指導者とすべての民はソロモンが「神殿建築を始める」と言うことだけを指折り数えて待っていたのです。

イスラエルは、ソロモンを中心にワンネスになって、神様の神殿を建築しました。神様は RUTC も、このように建てることを願っておられます。レムナントが、この働きに一番先頭に立つことを願っておられます。





神殿建築のための準備
 ダビデは自分の手で神殿を建築したかったのです。しかし神様はおゆるしになりませんでした。ダビデは、がっかりしませんでした。かえって、神殿建築に必要な準備を着々としました。ダビデだけではなく、イスラエルの人と、イスラエルに住む異邦人たちもいつしよにしました。人々は、神殿建築に必要な金・銀・銅・鉄・木、石、いろいろな宝石、杉の木などを喜んで持ってきました。「もう、持つて来なくてよい！十分だ」と言うほど人々がたくさん持つてきたのです。すべての民はひとつの心になって、神殿建築を準備しました。ある日、ダビデはソロモンを呼びました。幼くて弱く見えるソロモンを見て、ダビデは言いました。



神様の神殿を建築するソロモン
 「私の子、ソロモン。神様にお仕えて、心をすべてささげ、喜んでお仕えなさい。主は、すべての人の心をみな存じて、人の苦しみもみな読みとられる。神様の助けを求めるなら答えられるだろう。そして、これが神様の設計図だ。主が聖所となる神殿を建てさせようと、あなたを呼ばれたことを知らなければならぬ。力を出して、神殿を建てることをなしとげなさい。強く、雄々しく、このことをしなさい。おそれたり、おののいたりしてはならない。私の神である主は、あなたとともにおられ、神殿を建てるすべての仕事を終えるときまで、あなたを助けられる。あなたを離れられることはない」

レムナントが見るべき現場



きょうのみことは

使徒 2:43-47

そして毎日、心を一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事とともに、神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。
 (46-47)

神殿の美しの門の前で足のなえた人が、ものごいをしていました。人々は、足のなえた人にコインを投げてあげました。しかし、ペテロとヨハネはコインをあげませんでした。「私にあるものをあなたにあげよう。ナザレのイエス・キリストの名前で起きて歩きなさい」と言いました。ペテロとヨハネは、足のなえた人に本当に必要なことは、福音だと知っていたのです。

1. 目には見えません

人の心、考え、気分のようなものは目には見えません。しかし、とても重要です。神様の願いも目には見えません。それで、パリサイ人は、律法と伝統にすべての関心を注ぎました。神様の願いには、まったく心を向けませんでした。しかし、初代教会は違いました。たとえ弱くて迫害を受けたとしても、世界を福音化するように望んでおられる神様の願いを心に抱きました。イエス様をキリストとして受け入れるすべての人が、目には見えない教会であることを知って、行く所々に目には見えない教会である伝道者をたてました。

2. 目に見えます

目には見えない教会をたてたとすれば、もう目に見えることを正しく見なければなりません。神様は、レムナントのひとりひとりにビジョンをくださっています。レムナントは、神様が自分にくださったビジョンを先に見るべきです。そのビジョンが目の前に絵を描くように見えて(事実化)、現実の前になされる(現実化)方法は、祈りしかありません。神様は伝道者として呼ばれた私に、時代的で、絶対的で、当然の答えを備えられました。

父なる神様、世界福音化の重要なビジョンをあたえてくださって、ありがとうございます。当然に来るしかない答えをにぎって、現場を生かす証人として用いられます。私を用いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

※定刻祈りの点検：昼12時□—教会のために祈りましょう。夜9時—UTCのために祈りましょう

水曜日

7

きょうのみことば

出 20:1~2

それから神はこれらのことばを、ことごとく告げて仰せられた。「わたしは、あなたをエジプトの国、奴隷の家から連れ出した、あなたの神、主である。

レムナントの神様、主

エジプトから脱出したイスラエルがシナイ山にまで来ました。神様は、イスラエルに十戒を与えられる前に、「わたしはあなたをエジプトの地、奴隷の家から連れ出したあなたの神、主である」と言われました。神様は他の人の神様ではなく、私の神様です。レムナントは、どんなことをしても、この事実を一番最初に心にとめなければなりません。

1. 今まででもにおられた神様の証拠をにぎりましょう

罪とのろいとサタンから救われた神様が、今でも私とともにおられます。信仰生活をちゃんとしていなかったのでしょうか。教会で大きい失敗をしたのでしょうか。大丈夫です。私たちは、すべて、神様の恵みで救われました。

2. これからもともににおられる神様の恵みに感謝しましょう

救われて今まで導いてくださった神様は、レムナントがこれからしなければならぬ重要なことにもともにおられます。最後まで守って、祝福して下さいます。神様は私を通してなしとげようと思っておられるビジョンがあります。それを祈りの課題としてにぎってみましょう。そして、具体的に頭の中に絵を描くように夢見てみましょう。

3. もっと重要な福音(いのち)をにぎって祈りましょう

未来をながめながら祈りもして、挑戦もするのですが、今、すぐに、どうしようもないいろいろな問題があります。なおさら福音をにぎって祈ってみましょう。傷ついた心を暖かく抱いてくださって、なぐさめてくださる神様の御手を感ずることが出来ます。そして、その問題が、その痛みが、福音を伝える土台になる体験をしましょう。

私を罪ののろいから救い、今まで私とともにおられ、これからもいつもともにいてくださる神様に感謝します。福音をにぎって、神様がなさる未来を頭の中に絵で描いて、祈りたいです。イエスさまのお名前によってお祈りします。アーメン

※ 定刻祈りの点検：昼 12 時 □ 教会のために祈りましょう。夜 9 時 — RUTC のために祈りましょう

わたし

私の主なる神様！

エジプトから出てきたイスラエルの民は、荒野を通りシナイ山にきました。神様は、とても重要なみことばをくださるようです。出エジプト 20 章 1 ~ 17 節にその内容が出てきます。一度、開けて読んでみてください。あれ、絵がちょっと違うようです。まちがいを 13 個見つけてみてください。





木曜日

8

きょうのみことば

ローマ 8:12~17

あなたがたは、人を再び
恐怖に陥れるような、
奴隷の霊を受けたのでは
なく、子としてくださる
御霊を受けたのです。
私たちは御霊によって、
「アバ、父」と呼びます。
(15)

子としてくださる霊

ひとりでいるときは、さびしくて、はじめてのところに行く、
こわいときがあるでしょう。また、お金がないとなぜかはずか
しくて不安になることがあるでしょう。さびしさ、こわいこと、
おそれ、この心はどこから来るのでしょうか。悪い霊が持って
くる心です。しかし、レムナントはいつでも、どこでも、その
ようになる必要はありません。なぜでしょう。神様の子どもだ
からです。

1. 神様の原理で子どもにしてくださいました

イエス・キリストを通して神様の子どもになりました。イエス
様は真の神様で、人間の姿でこられた神様のひとり子です。
レムナントは、神様が法的に子どもとされた養子です。

2. 悪い霊をくだく権威をくださいました

神様は養子とされただけでなく、おそれをもたらす悪い霊をは
ねのける権威もまたくださいました。それで、神様を「パパ」
と呼んで、隊長であるイエス・キリストの御名によって悪い霊
のすべての権威をくだくことができます。

3. 永遠な権威をくださいました

イエス様を通して神様の養子になるように導いてくださった
聖霊様(子としてくださる霊)が、レムナントと永遠にともにお
られます。それで、どんな状況でも恐れる必要がないのです。
堂々と勇氣を出して挑戦してみてください。もちろん、サタン
が心の中でささやくでしょう。耳を傾けないでください。すべ
て、うそです。神様のみことばにだけ、耳をピンと立てて、信仰
の挑戦を続けてしてみましょう。

私を養子としてくださった神様の大きな愛に感謝します。聖霊様がいつも私とともにい
てくださることが感じられますように。そして、これからは、おそれ、こわさ、なやみ、心配
から出て、堂々と挑戦することができるよう助けてください。イエスさまの
お名前によってお祈りします。アーメン

★定刻祈りの点検：昼 12 時 □—教会のために祈りましょう。夜 9 時—RUTC のために祈りましょう



Kidz Quiz 9 クイズ

わたしはだれでしょう

I am Jesus' disciple. ▶ 私はイエス様の弟子です

I was not there the day Jesus came after resurrecting.

▶ イエス様が復活されて来られた日に、私はそこにともにいませんでした。

The other disciples said they saw Jesus.

▶ 他の弟子たちは、イエス様を見たと言いました。

But I didn't believe them. ▶ でも私は信じませんでした。

Eight days passed. ▶ 8 日間が過ぎました。

I was with the other disciples. ▶ 私は他の弟子たちといっしょにいました。

The door was locked. ▶ 戸にはかぎがかかっていた。

But Jesus came in. ▶ でも、イエス様は入ってこられました。

Jesus stood among us and said,

▶ イエス様は私たちの中に立って言われました

"Peace be with you." ▶ 「あなたがたに平安があるように」

Then he said to me, ▶ そして、私に言われました。

"Put your finger here; see my hands. Reach out your hand

and put it into my side. Stop doubting and believe."

▶ あなたの指をここに当てて、私の手を見なさい。あなたの手をのばして私の
脇においてみなさい。信じない者にならず、信じる者になりなさい。

I answered, ▶ 私は答えました。

"My lord and my God." ▶ 「私の主、私の神」

Then Jesus said, ▶ そうしたら、イエス様は言われました。

"Because you have seen me, you have believed;
blessed are those who have not seen and yet
have believed."

▶ あなたはわたしを見たから信じたのですが、見ずに
信じる者は幸いです。

私はだれかわかりますか？

私はトマス (Tomas) です

金曜日

9

きょうのみことば

ローマ 16:25～27

RUTC はレムナントの土台

テレビのエンターテインメント番組の中に「○○に行くと○○もあって～」という、おもしろいゲームをよく見ます。一人でもよくて、友達といっしょでも良いのです。RUTC に何があるか、リズムに乗って言ってみましょう。たとえば「RUTC に行けば、プールがあって～」「RUTC に行けば、図書館もあって～」「RUTC に行けば、パソコンがあって～」

1. 忠告を大切にしましょう

私の福音とイエス・キリストの宣教によって、すなわち、世々にわたって長い間隠されていたが、今や現わされて、永遠の神の命令に従い、預言者たちの書によって、信仰の従順に導くためにあらゆる国の人々に知らされた奥義の啓示によって、あなたがたを堅く立たせることができる方、知恵に富む唯一の神に、イエス・キリストによって、御栄えがとこしえまでありますように。アーメン。

RUTC は、レムナント(Remnant)が共同体(Unity)になる訓練(Training)を受ける場所(Center)です。RUTC が簡単な周りと同じような建物だったら、何の意味もあります。神様が喜ばれる理由もまったくない建物です。しかし、RUTC は単純な建物を越えて、未来と次世代を生かすレムナント運動の出発点なのです。神様はこの働きに、神様の子どもがすべて一つの心、同じ思いになって祈ることを望んでおられます。少ない献金でも、心よりささげようとしてみましょう。このことに一緒にしようという運動が RUTC 24 なのです。

2. RUTC のために何をささげることができますか

レムナントはまだ、とても幼いのです。大人のようにお金をかせぐことはできません。それで、RUTC 献金を多くだそうと、欲を出さないでください。友だちと競争して出そうとしないでください。心からお昼の 12 時、夜の 9 時に静かに RUTC のために祈っててください。少しでもおこずかいをためて、RUTC のために神様にささげてみましょう。神様は、レムナントの心をみんな知っておられます。

福音でもっと固く立てられる神様、レムナントが福音にあって訓練をよく受けることができるように、RUTC が早く立てられるように、祝福してください。少ない献金ですが、RUTC 24 運動に参加したいです。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン

※定刻祈りの点検：昼 12 時 □—教会のために祈りましょう。夜 9 時—RUTC のために祈りましょう

エル・ロイ は、見ておられる神様という意味です。

El Roi

神様は、神様の子どもをどこでも、いつでも見ておられます(偏在)。神様の子どもすべての生活とその心の中までも、みな見ておられます。眠ることも、まどろむこともなく、いつでも見ておられます。友だちから、いじめられて、無視されたときでも、こわい年上の男の子や女の子に、お金をおどしとられたときも、お父さんお母さんから、ひどい目にあうときでも神様は知らないふりをしないで、みな見ておられます。お父さんとお母さんが、そばで私をながめていれば世の中にこわいことが一つもないように父なる神様が、私を燃える炎のような目で見てくださっているから、こわいことはありません。恐れることも、心配することもないのです。一日、いつもともにおられ、いつも見つめて守ってくださる神様を味わってみましょう。

詩篇 139:7-12 私はあなたの御霊から離れて、どこへ行けましょう。私はあなたの御前を離れて、どこへのがれましょう。たとい、私が天に上っても、そこにあなたはおられ、私がよみに床を設けても、そこにあなたはおられます。私が 暁の翼をかって、海の果てに住んでも、そこでも、あなたの御手が私を導き、あなたの右の手が私を捕らえます。たとい私が「おお、やみよ。私をおおえ。私の回りの光よ。夜となれ」と言っても、あなたにとっては、やみも暗くなく夜は昼のように明るいのです。暗やみも光も同じことです。

10日(土)

頂上に向かって

白^ひ差しが、カンカン^て照りつける昼^{ひる}だったが、木の下でそよそよと吹^ふく風は、額^{ひたい}の汗^{あせ}をさましてくれた。ノゾミは、平たい岩^{はつきん}を発見^{はつけん}すると、すばやく走^{はし}って行^いった。岩にのぼると、前^{まへ}がさっとひらけて、山の麓^{ふもと}の姿^{すがた}が目^めにうつった。ノゾミは、両手^{りょうて}を口に当てて、ヤッホーと叫^{さけ}んだ。そして、ふりむいてパパを呼^よんだ。

「パパ、はやくここに来てみて。山の麓^{ふもと}がとても良^よく見えるよ」

「そうかい。この岩^{いし}は、途中^{とちゅう}で休^{やす}んで行くのに、ちょうど良^よい所^{ところ}なんだよ。きれいな景色^{けしき}を見ることが出来るから、良^よいだろう。ノゾミも気持^{きもち}ち良^いいだろう」

ノゾミとパパは、しばらく休^{やす}んで険^{けわ}しい山道^{さんどう}に入^いっていった。ノゾミは、息^{いき}をフーフー言^いうようになった。また、急^{きゅう}な坂^{さか}では、足^{あし}が滑^{すべ}ったりもして、とても狭^{せま}い道^{みち}では一歩^{いっぽ}ずつ用心^{ようじん}深く足^{あし}を踏^ふみ出^だしたりもした。

いつのまに峰^{みね}が現^{あらわ}れた。ノゾミは、パパの手^てを握^{にぎ}ってより一層^{いっそう}、力強^{ちから}く足^{あし}を踏^ふみ出^だして峰^{みね}に向^{むか}った。

「ヤッホー!ヤッホー!」

峰^{みね}に到^{とう}着^{ちゃく}したノゾミは、周^{しゅう}辺^{へん}をぐるっと見^みまわした。山の麓^{ふもと}の村^{むら}と、美^{うつく}しい景^{けしき}色^{しき}がひと目^{ひとめ}で入^いってきた。

「パパ、私^{わたし}たち下^{した}からここまで上^あがってきたんだね。本当^{ほんとう}に気持^{きもち}ちが良^いいね」

「そうだね。ノゾミ、お前^{まへ}は、よくやりとげたよ。誇^{ほこ}りに思^{おも}うよ」

パパは、おやつで包^{つつ}んできたキュウリをノゾミにくれた。ノゾミがすがすがしい風^{ふう}に吹^ふかれながら、キュウリをさくさくとかじった。

パパは、山から見下ろしながら、静^{しず}かに賛美^{さんび}を歌^{うた}いはじめた
♪「輝^{かがや}く日^ひをあおぐとき、月星^{げつせい}ながむるとき、いかずち
なりわたるとき、まことのみ神^{かみ}を思^{おも}う。わがたま、
いざたたえよ。大^{だい}なるみ神^{かみ}を。わがたま、いざたたえよ
大^{だい}なるみ神^{かみ}を」

パパは、山のまわりをもう一度、ぐるっと見回^{みまわ}して、すぐにノゾミを見つめながら言^いいました。

「ノゾミ、もう立ち上^あがろう。ここが終^はわりではない」

ノゾミは、足^{あし}をはたいて、すっと立ち上^あがった。

「パパ、てっぺんまで上^あがれたら、かならず、自^{じてんしゃ}転^か車^かを買^かってね」

「そうだよ。パパが約^{やく}束^{そく}しただろう。しかし、ここまでよくあがってきたがここでやめると、何^{なに}にもならないんだよ。あのとっぺんまで上^あがらなくては。

ノゾミ、今までよくやったと、自^{じまん}慢^{まん}だけしていたら、より重^{じゅう}要^{よう}なことを

のがしてしまうんだよ。それで、いつも神^{かみ}様^{さま}に感^{かん}謝^{しゃ}して、これから、

私^{わたし}たちを通^{とお}してなされることに向^{むか}って、続^{つづ}けて出^でていこう。それが

本当^{ほんとう}にかしこいことなんだよ。なぜなら、ここに神^{かみ}様^{さま}が約^{やく}束^{そく}された

もっと大^{おほい}きな報^{むく}い^まが待^{まち}っているんだ。わかるかい。だったら出^{しゅっぱつ}発^{はつ}!」

ノゾミは、パパの手^てをぐっと握^{にぎ}って、頂^{てん}上^{げん}に向^{むか}かってもう一度力強^{ちから}く足^{あし}を踏^ふみ出^だした。そして、神^{かみ}様^{さま}から受^うけた答^{こた}えに感^{かん}謝^{しゃ}して

これから受^うける、もっと大^{おほい}きな祝^{しゅく}福^{ふく}に向^{むか}って

挑^{ちょう}戦^{せん}しなければならんと思った。

★定刻^{ていこく}祈^{いの}りの点^{てん}検^{けん}：

昼^{ひる} 12 時□

—教会^{かい}のために祈^{いの}りましよう。

夜^よ 9 時□

—RUTC のために祈^{いの}りましよう